

## 平成 30 年度 実施事業の概要

施設名: 国立妙高青少年自然の家
教育事業名: 統合型長期移動チャレンジキャンプ「MYOKO チャレンジ 2018」 ～山を越え、自分を超越る。一生忘れない仲間と一生忘れない 13 日間～
期間: 平成 30 年 7 月 14 日(土)～7月 15 日(日)事前キャンプ 平成 30 年 7 月 29 日(日)～8 月 10 日(金)本キャンプ
対象及び参加人数: 小学校 5 年生～中学校 3 年生 17 人
目的: ○「社会を生き抜く力」の育成のためのプログラム開発と成果の普及 ○統合型長期移動チャレンジキャンプの成果の普及 ○参加者の変容を見取るための評価とその結果について、質的・量的データを提供する。 ○参加者にとって分かりやすい情報提供の在り方など体験活動のユニバーサルデザイン化を図る。
事業概要: 本事業は、子供たちの「社会を生き抜く力」を育成するために実施した 12 泊 13 日の長期キャンプである。またこのキャンプは、統合型キャンプとして、性別や障害の有無等に関係なく、様々な個性や特性をもつ子供たちが、自然への挑戦や他者との協働を通して、「社会を生き抜く力」を育成することをねらいとしているキャンプである。活動場所は、信越トレイル(全長約 80km)と、妙高戸隠連山国立公園の一部である笹ヶ峰・火打山・妙高山である。テント泊をしながら生活し、大自然の困難な状況の中でも、様々な活動を仲間と協力しながら乗り越えていくことで社会を生き抜く力の育成をする。
成果 ○ステージごとに主活動を変更するのではなく、「歩く」という活動を繰り返すことで、歩くペースや歩き方などを自分たちで考え、実行することができた。 ○キャンプの構造化とスタッフの受容共感的なかわり方によって、参加者が活動プログラムに取り組みやすくなり、グループの主体性の向上につながっていった。 ○困難な状況においても、自分で考え、仲間と話し合いながら、あきらめずに乗り越えていく姿があった。 ○グループの中で自分の役割を果たそうと努力したり、助けが必要な場面で仲間を支えながら活動したりしていた。 ○感謝の気持ちを素直に言葉で表現したり、文章で伝えたりする姿があった。 ○自分の苦手や短所を克服しようと努力したり、必要に応じて他者に助けを求めたりする姿があった。 ○キャンプ中のエピソードとしては、ADHD や不登校などの課題を抱えた児童生徒と、他の参加者のとの集団活動によって「自分らしさ」の変容がみられるエピソードが複数ある(昨年度までの事例は、報告書に掲載)
課題: ・どのプログラムや手立てが、個々の自立を含む成長につながったのかをはかる客観的なデータの蓄積。 ・発達障害を抱える参加者へのアンケートなどデータの取り方。 ・発達障害を抱える子供への接し方。(スタッフ・参加した子供たちともに) ・移動型キャンプにともなう支援体制の負担。 ・参加申し込みに至るまでのハードルの高さがある。 ・リスクマネジメント。雷対応とエスケープルートの確保。 ・TVや新聞には、もっと電話で売り込むべきだった。(募集と実施ともに)